

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

— 平成 1 4 年 1 月 調査結果 —

(平成 1 4 年 1 月 3 1 日)

○調査期間：平成 1 4 年 1 月 1 8 日～2 4 日

○調査対象：全国の 3 9 7 商工会議所が 2 6 2 3 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 8 製造業 6 3 6 卸売業 2 3 7
小売業 7 5 3 サービス業 6 0 9

○調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

※ D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 4 / 7 8 3 6
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は、日商ホームページ (<http://www.jcci.or.jp>) でもご覧になれます。

【平成14年1月調査結果のポイント】

依然厳しさ続く中小企業の景況感

- 1月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、サービス業を除く4業種でマイナス幅が前月水準より縮小したことから、前月水準（▲62.8）よりマイナス幅が2.4ポイント縮小して▲60.4となった。前月、年末の資金繰り悪化への懸念や年末商戦・忘年会予約の不振等を背景に、5.5ポイントもの大幅悪化が見られたが、今月は、その反動もあって悪化度合いが弱まった。しかしながら、今月は、前月に引き続き、平成10年12月以来のマイナス60ポイント台が続き、楽観は許されない。（ちなみに、調査開始（平成元年4月）以来の最低値は平成10年8月の▲66.9。）総じて、地域経済や中小企業の足元の景況感は、引き続き厳しい状況となっている。

建設業では、引き続き、公共工事、民間工事とも発注が極めて少なく、その少ない発注をめぐって受注競争が激化しているとの声が多く寄せられた。また、公共工事については、「年度末に向けて官公庁物件の増加に期待」（建築工事）などの声がある一方で、「14年度政府予算に対して失望感大。今後の工事量確保に危機感」（一般工事）、「今後次年度につながる工事が3月までに出るかどうかが懸念」（土木工事）といった声も寄せられた。

製造業では、引き続き、「自動車生産コスト削減による単価引き下げ」（金属加工機械製造）、「海外生産国の生産増加により国内向け生産・販売が低迷」（金物類製造）、「金融機関の貸し渋りの影響で資金繰りも困難」（家具製造）、「市との契約減少。また競争激化により単価減少が顕著」（印刷業）、「値下げ競争の激化。安くても断れない現状」（鉄素形材製造）などの採算面の厳しさを訴える声が多く寄せられる一方で、「発注元（繊維機械）の先行き生産が増える見込み」（金属加工機械製造）、「親会社へ航空機の大型発注が決定。今後、当組合への発注が見込める」（輸送用機器製造）、「徐々に受注量が上がる見込み」（鉄素形材製造）、「米国在庫調整により半導体不況が1年間続いた。今年に入り底を打ったと思えるので回復を期待している」（電子部品製造）など、先行きへの期待をにじませた声も寄せられた。また、最近の円安傾向に関し、輸出関連への効果を期待する声がある一方で、木製品製造業や水産食料品製造業等からは輸入原材料の値上がりを懸念する声もあった。

卸売業では、「小売店舗の減少に歯止めが利かない」（総合卸）、「取引メーカーの倒産・廃業が多く、新規取引を開始しても仕入単価が高く商売が困難」（繊維品卸）といった取引先に係る問題の指摘や、「大型小売店の影響大」（農畜産水産物卸）などの厳しい状況を訴える声がある一方で、「卸売りから消費者への小売に力を入れている」（総合卸）といった経営努力についての声も寄せられた。

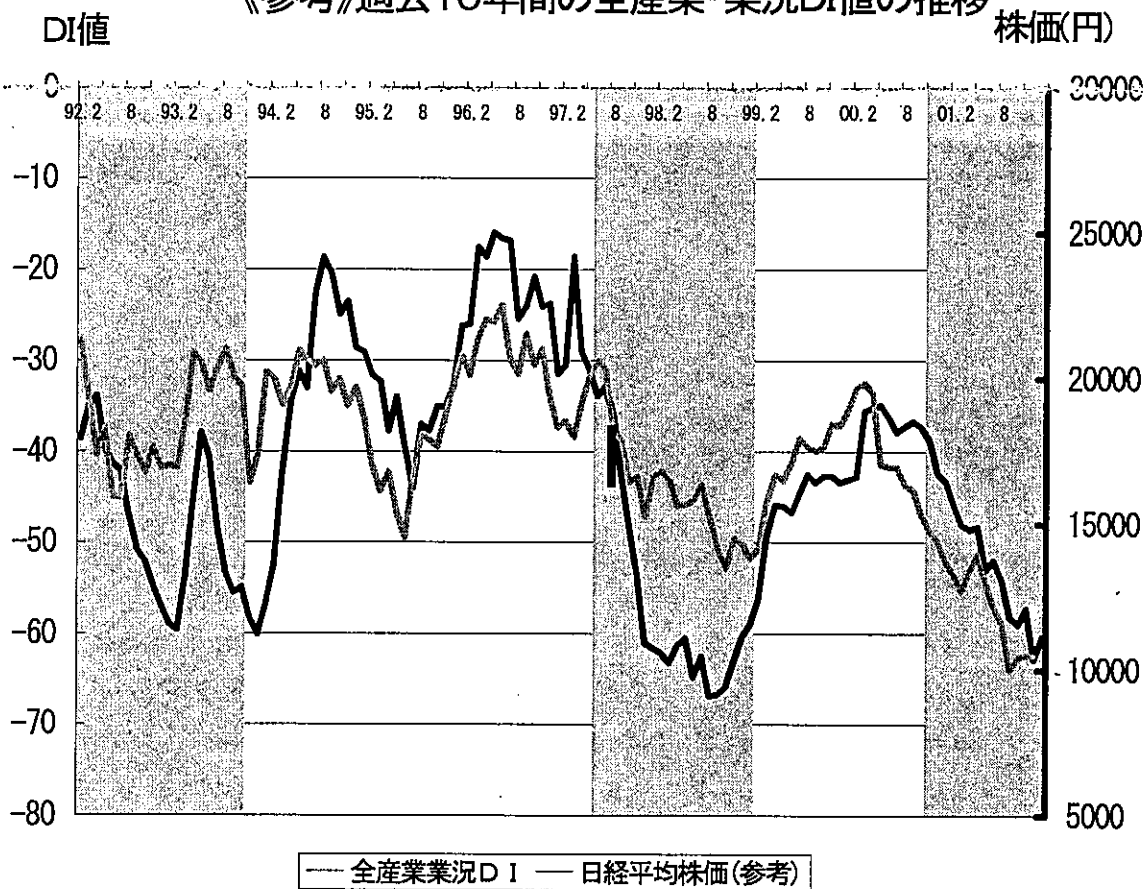
小売業では、引き続き客単価の減少についての声が多く寄せられたほか、「雪の影響で客数減」（百貨店）、「地元主力企業の破綻による消費マインドの冷え込み」（百貨店）、「昨年末の倒産・金融不安を引きずり、消費者の財布の紐が固い」（商店街）などの厳しい声が多く寄せられる一方、初売り好調、冬物セール好調等の声も寄せられている。

サービス業では、飲食関係や旅館から「新年会の予約低調」といった声が多く寄せられたほか、「企業の出張経費削減で需要停滞」（旅館）、「大手自動車販売会社やガソリンスタンドで安価な車検整備が増加し、既存業者の仕事が大きく減少」（自動車整備）、「来店サイクルの長期化」（理容・美容）、「円安による輸入食材の値上がりが売上不振に追い討ち」（料亭）、「工作機械のリース引き合いが依然低調」（各種物品賃）などの声が多く寄せられている。

売上面では、建設業および卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大、他の3業種で縮小し、全産業合計の売上DIは、前月と同水準の▲53.9となった。採算面では、建設業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全産業合計の採算DIは、マイナス幅が1.2ポイント縮小して▲54.0となった。

- 向こう3ヵ月(2月~4月)の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI(今月比ベース)が▲52.4と、昨年同時期の先行き見通し(▲36.8)に比べて極めて厳しい見方となっている。
- 景気に関する声、当面する問題としては、年度末から次年度にかけての公共工事の受注動向、個人消費や為替相場の動向などについての関心が高い。

《参考》過去10年間の全産業・業況DI値の推移



【業況についての判断】

○ 全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、サービス業を除く4業種でマイナス幅が前月水準より縮小したことから、前月水準（▲62.8）よりマイナス幅が2.4ポイント縮小して▲60.4となった。前月、年末の資金繰り悪化への懸念や年末商戦・忘年会予約の不振等を背景に、5.5ポイントもの大幅悪化が見られたが、今月は、その反動もあって悪化度合いが弱まった。しかしながら、今月は、前月に引き続き、平成10年12月以来のマイナス60ポイント台が続き、楽観は許されない。総じて、地域経済や中小企業の足元の景況感は、引き続き厳しい状況となっている。

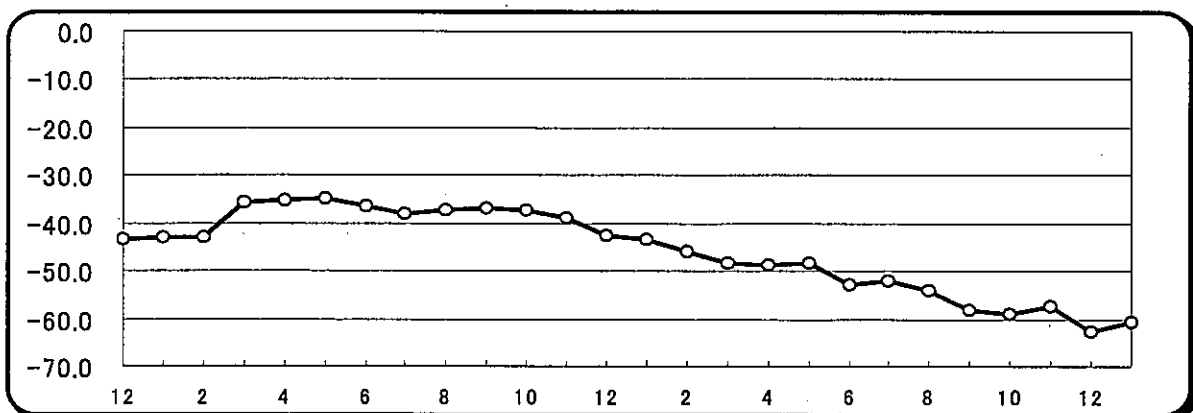
○ 向こう3ヵ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が▲52.4と、昨年同時期の先行き見通し（▲36.8）に比べて極めて厳しい見方となっている。

業況DI（前年同月比）の推移

	13年						14年	
	8月	9月	10月	11月	12月	1月	先行き見通し 2～4月	
全産業	▲54.2	▲58.2	▲59.0	▲57.3	▲62.8	▲60.4	▲52.4 (▲36.8)	
建設	▲60.6	▲64.8	▲69.5	▲66.3	▲70.7	▲69.1	▲64.9 (▲50.5)	
製造	▲57.8	▲61.5	▲62.6	▲64.9	▲69.9	▲64.4	▲53.3 (▲29.3)	
卸売	▲63.2	▲62.6	▲70.6	▲66.5	▲70.2	▲68.2	▲49.0 (▲38.1)	
小売	▲51.1	▲53.0	▲53.0	▲50.1	▲56.2	▲52.9	▲47.3 (▲37.5)	
サービス	▲46.3	▲54.5	▲50.5	▲47.3	▲54.2	▲55.9	▲50.8 (▲34.1)	

※「先行き見通し」は当月に比した向こう3ヵ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年1月の先行き見通しDI<以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



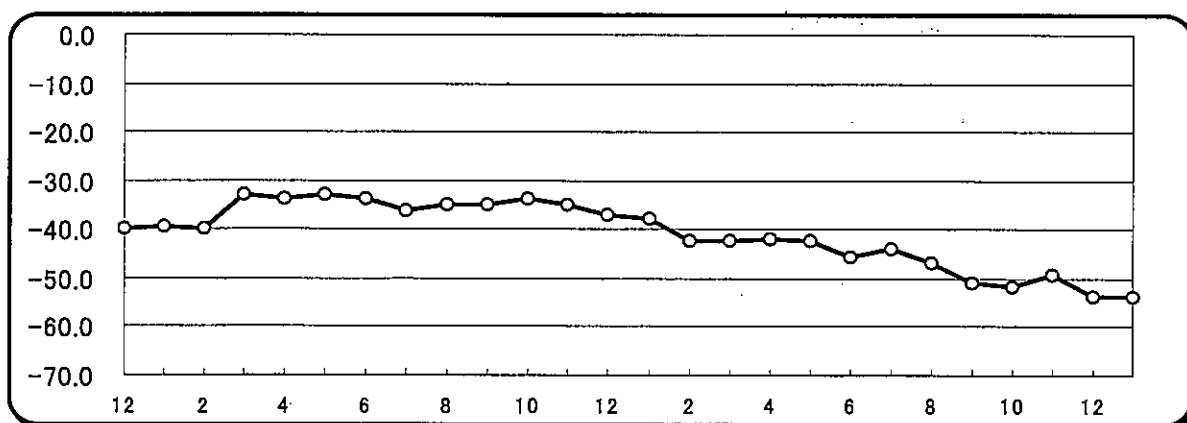
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

- 売上面では、建設業および卸売業で前月水準に比べてマイナス幅が拡大、他の3業種で縮小し、全産業合計の売上DIは、前月と同水準の▲53.9となった。
- 向こう3ヵ月（2月～4月）の先行き見通しについては、全産業合計の売上DI（今月比ベース）が▲46.7と、昨年同時期の先行き見通し（▲30.3）に比べて非常に厳しい見方となっている。

売上（受注・出荷）DI（前年同月比）の推移

	13年 8月	9月	10月	11月	12月	14年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲47.0	▲50.8	▲51.8	▲49.4	▲53.9	▲53.9	▲46.7 (▲30.3)
建設	▲53.8	▲60.1	▲60.7	▲60.4	▲60.0	▲63.6	▲62.1 (▲41.3)
製造	▲50.0	▲50.9	▲53.9	▲54.6	▲60.0	▲59.6	▲45.7 (▲18.1)
卸売	▲56.1	▲55.1	▲61.4	▲59.4	▲57.0	▲63.1	▲46.2 (▲33.8)
小売	▲45.6	▲45.9	▲45.9	▲42.9	▲46.9	▲45.2	▲42.9 (▲35.3)
サービス	▲37.3	▲48.4	▲46.5	▲39.7	▲50.1	▲47.9	▲42.5 (▲28.6)

《売上（受注・出荷）DI（全産業・前年同月比）の推移》



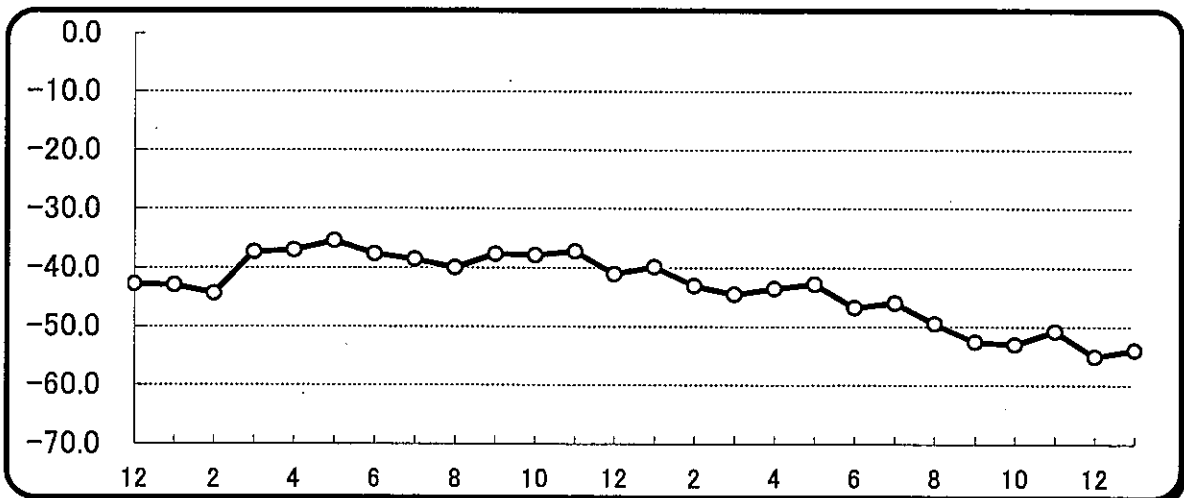
【採算の状況についての判断】

- 採算面では、建設業を除く4業種でマイナス幅が前月水準に比べて縮小したことから、全産業合計の採算D Iは、マイナス幅が1.2ポイント縮小して▲54.0となった。
- 向こう3ヵ月(2月～4月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I(今月比ベース)が▲46.7と、昨年同時期の先行き見通し(▲32.1)に比べて厳しい見方となっている。

採算D I (前年同月比) の推移

	13年 8月	9月	10月	11月	12月	14年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲49.5	▲52.6	▲53.1	▲50.8	▲55.2	▲54.0	▲46.7 (▲32.1)
建設	▲59.9	▲63.2	▲64.2	▲63.4	▲64.4	▲69.1	▲66.2 (▲44.1)
製造	▲56.1	▲59.4	▲59.5	▲59.6	▲63.5	▲60.4	▲49.6 (▲24.7)
卸売	▲56.1	▲52.4	▲58.2	▲51.6	▲57.6	▲57.3	▲40.8 (▲31.9)
小売	▲43.7	▲43.0	▲43.5	▲40.8	▲45.4	▲43.1	▲38.6 (▲34.6)
サービス	▲39.8	▲49.6	▲47.5	▲44.0	▲50.1	▲48.5	▲42.5 (▲29.1)

《採算D I (全産業・前年同月比) の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比) の推移

	13年 8月	9月	10月	11月	12月	14年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	▲ 32.5	▲ 37.3	▲ 37.1	▲ 38.6	▲ 42.5	▲ 41.2	▲ 40.5 (▲ 24.7)
建設	▲ 44.1	▲ 42.8	▲ 43.2	▲ 47.7	▲ 53.2	▲ 45.7	▲ 47.3 (▲ 35.2)
製造	▲ 35.4	▲ 41.9	▲ 43.4	▲ 44.8	▲ 51.8	▲ 48.2	▲ 47.4 (▲ 20.9)
卸売	▲ 32.5	▲ 37.5	▲ 34.4	▲ 37.4	▲ 35.7	▲ 43.0	▲ 36.8 (▲ 21.7)
小売	▲ 26.3	▲ 30.2	▲ 28.9	▲ 29.1	▲ 34.3	▲ 32.3	▲ 32.4 (▲ 25.8)
サービス	▲ 27.0	▲ 35.1	▲ 34.3	▲ 35.1	▲ 34.1	▲ 37.7	▲ 39.0 (▲ 21.8)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】建設業、製造業および小売業で悪化超感が弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べ悪化超感が強まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比) の推移

	13年 8月	9月	10月	11月	12月	14年 1月	先行き見通し 2~4月
全産業	3.7	4.2	2.1	4.9	5.1	3.7	▲ 0.6 (▲ 3.1)
建設	7.0	2.2	5.0	6.3	4.1	1.5	▲ 0.7 (▲ 5.6)
製造	▲ 2.7	▲ 0.5	▲ 4.8	0.7	1.4	▲ 3.1	▲ 5.5 (▲ 6.3)
卸売	8.4	11.0	9.9	12.3	18.7	14.7	7.1 (5.6)
小売	12.9	10.0	7.7	7.9	12.0	11.4	5.0 (1.3)
サービス	▲ 4.8	0.8	▲ 2.0	1.6	▲ 4.1	▲ 1.3	▲ 5.2 (▲ 7.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】サービス業を除く4業種で下落超感が弱まる。

【先行き見通しD I】全業種で、昨年同時期に比べ下落超感が強まる見通し。

従業員D I（前年同月比）の推移

	13年 8月	9月	10月	11月	12月	14年 1月	先行き見通し 2～4月
全産業	▲ 14.4	▲ 15.7	▲ 17.2	▲ 16.8	▲ 19.2	▲ 19.3	▲ 18.8 (▲ 12.0)
建設	▲ 30.8	▲ 29.0	▲ 31.2	▲ 31.5	▲ 34.6	▲ 34.5	▲ 34.8 (▲ 22.1)
製造	▲ 21.9	▲ 22.9	▲ 25.6	▲ 26.2	▲ 30.7	▲ 30.2	▲ 28.5 (▲ 14.8)
卸売	▲ 18.1	▲ 16.3	▲ 20.3	▲ 18.7	▲ 19.2	▲ 24.2	▲ 15.0 (▲ 17.9)
小売	▲ 4.0	▲ 5.8	▲ 8.4	▲ 4.5	▲ 7.2	▲ 8.1	▲ 9.1 (▲ 10.0)
サービス	▲ 6.3	▲ 10.2	▲ 7.3	▲ 9.9	▲ 9.5	▲ 8.1	▲ 10.4 (▲ 2.3)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比D I】卸売業および小売業で過剰超感が強まる。

【先行き見通しD I】卸売業および小売業で、昨年同時期に比べて過剰超感が弱まる見通し。

【平成14年1月の景気キーワード】

○ 先行き不透明感

「年度末に向けて官公庁物件の増加に期待」（名古屋・建築工事）などの声のほか、製造業から「発注元（繊維機械）の先行き生産が増える見込み」（松任・金属加工機械製造）、「米国在庫調整により半導体不況が1年間続いた。今年に入り底を打ったと思えるので回復を期待している」（茅野・電子部品製造）など、先行きへの期待をにじませた声も寄せられているが、依然として、先行きの業況に関する不透明感や先行きへの不安に関する指摘が多く寄せられている。建設業からは、「14年度政府予算に対して失望感大。今後の工事量確保に危機感」（釧路・一般工事）などの声が、製造業からは、「海外生産国の生産増加により国内向け生産・販売が低迷」（燕・金物類製造）、「市との契約減少。また競争激化により単価減少が顕著」（町田・印刷業）、「値下げ競争の激化。安くても断れない現状」（西尾・鉄素形材製造）といった声が寄せられている。また、卸売業・小売業・サービス業からは、「大型小売店の影響大」（御坊・農畜産水産物卸）、「地元主力企業の破綻による消費マインドの冷え込み」（加茂・百貨店）、「企業の出張経費削減で需要停滞」（静岡・旅館）、「大手自動車販売会社やガソリンスタンドで安価な車検整備が増加し、既存業者の仕事が大きく減少」（豊橋・自動車整備）、「来店サイクルの長期化」（上越・理容、山形・美容ほか）などの声が寄せられている。

○ 倒産・廃業

今月についても、長引く低迷や先行き見通しが厳しい影響から、倒産や廃業についてのコメントが多く寄せられた。「大手系卸商倒産の影響が心配される」（一宮・ねん糸製造）、「印刷業者の倒産も目立つが、関連業界である洋紙業者やデザイン、製版、製本などの業者の倒産も目立つようになってきた」（茨木・印刷関連業）、「住宅関連の落ち込みが激しいために木材需要の経営環境は大変厳しく、倒産・廃業企業増加傾向にある」（榎原・建築用組立材料製造）、「小売店だけでなく取引メーカーの廃業や倒産が多く、新規で取引を開始しても仕入れ単価が高く商売が困難」（宇都宮・繊維品卸）、「取引先倒産もこのところ更に増加の傾向にあり、このような背景では思い切った取り組み、展開も出来ない」（熊本・百貨店）などの指摘が寄せられている。

○ 円安

為替相場において円安傾向が続いている状況に関し、コメントが寄せられている。「円安傾向となり輸出関連に期待」（安城・自動車・同附属品製造）との声がある一方、「ノルウェー鯖の仕入が上がりつつあり、今後は厳しい」（銚子・水産食料品製造）、「輸入木材の仕入単価が上昇傾向」（浦和・建築材料卸）、「輸入食材の値上がりが売上不振に追い打ち」（真岡・料亭）との声も寄せられている。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
13年11月	先行き不透明感	冬物商品	倒産・廃業
13年12月	先行き不透明感	倒産・廃業	
14年 1月	先行き不透明感	倒産・廃業	円安

※景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

(参考)

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	売上・採算D Iは前月水準に比べてマイナス幅が拡大したが、業況D Iは前月水準に比べてマイナス幅縮小となっている。引き続き、公共工事、民間工事とも発注が極めて少なく、その少ない発注をめぐって受注競争が激化しているとの声が多く寄せられた。また、公共工事については、「年度末に向けて官公庁物件の増加に期待」（建築工事）などの声がある一方で、「14年度政府予算に対して失望感大。今後の工事量確保に危機感」（一般工事）、「今後次年度につながる工事が3月までに出るかどうかが懸念」（土木工事）といった声も寄せられた。
製 造	業況・売上・採算D Iとも前月水準に比べてマイナス幅が縮小した。引き続き、「自動車生産コスト削減による単価引き下げ」（金属加工機械製造）、「海外生産国の生産増加により国内向け生産・販売が低迷」（金物類製造）、「金融機関の貸し渋りの影響で資金繰りも困難」（家具製造）、「市との契約減少。また競争激化により単価減少が顕著」（印刷業）、「値下げ競争の激化。安くても断れない現状」（鉄素形材製造）などの採算面の厳しさを訴える声が多く寄せられる一方で、「発注元（繊維機械）の先行き生産が増える見込み」（金属加工機械製造）、「親会社へ航空機の大型発注が決定。今後、当組合への発注が見込める」（輸送用機器製造）、「徐々に受注量が増える見込み」（鉄素形材製造）、「米国在庫調整により半導体不況が1年間続いた。今年に入り底を打ったと思えるので回復を期待している」（電子部品製造）など、先行きへの期待をにじませた声も寄せられた。また、最近の円安傾向に関し、輸出関連への効果を期待する声がある一方で、木製品製造業や水産食料品製造業等からは輸入原材料の値上がりを懸念する声もあった。
卸 売	売上D Iは前月水準に比べてマイナス幅が拡大したが、業況・採算D Iは前月水準に比べてマイナス幅縮小となっている。「小売店舗の減少に歯止めが利かない」（総合卸）、「取引メーカーの倒産・廃業が多く、新規取引を開始しても仕入単価が高く商売が困難」（繊維品卸）といった取引先に係る問題の指摘や、「大型小売店の影響大」（農畜産水産物卸）などの厳しい状況を訴える声がある一方で、「卸売りから消費者への小売に力を入れている」（総合卸）といった経営努力についての声も寄せられた。
小 売	業況・売上・採算D Iとも、前月のマイナス幅拡大から反転し、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している。引き続き客単価の減少についての声が多く寄せられたほか、「雪の影響で客数減」（百貨店）、「地元主力企業の破綻による消費マインドの冷え込み」（百貨店）、「昨年末の倒産・金融不安を引きずり、消費者の財布の紐が固い」（商店街）などの厳しい声が多く寄せられる一方、初売り好調、冬物セール好調等の声も寄せられている。
サービス	売上・採算D Iでは、前月水準に比べてマイナス幅が縮小している一方、業況D Iについては、全業種中唯一のマイナス幅拡大となっている。飲食関係や旅館から「新年会の予約低調」といった声が多く寄せられたほか、「企業の出張経費削減で需要停滞」（旅館）、「大手自動車販売会社やガソリンスタンドで安価な車検整備が増加し、既存業者の仕事が大きく減少」（自動車整備）、「来店サイクルの長期化」（理容・美容）、「円安による輸入食材の値上がり売上不振に追い討ち」（料亭）、「工作機械のリース引き合いが依然低調」（各種物品賃貸）などの声が多く寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

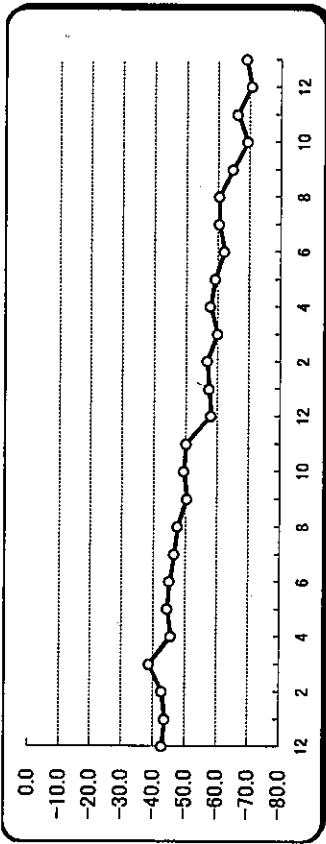
- ブロック別の業況D I（前年同月比ベース）を見ると、全産業合計では全ブロックとも引き続きマイナス水準での推移となっている。また、北海道および北陸信越の両ブロックで前月水準に比べてマイナス幅が拡大、他の各ブロックで縮小した。
- ブロック別の向こう3ヵ月（2月～4月）の業況の先行き見通しは、全産業合計では、引き続きマイナス水準。また、四国を除く各ブロックにおいて、昨年同時期の先行き見通しに比べて厳しい見方となっている。

ブロック別・全産業業況D I（前年同月比）の推移

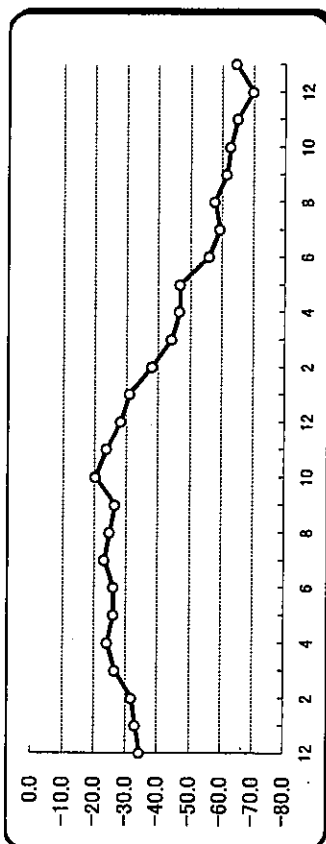
	13年 8月	9月	10月	11月	12月	14年 1月	先行き見通し 2～4月
全 国	▲ 54.2	▲ 58.2	▲ 59.0	▲ 57.3	▲ 62.8	▲ 60.4	▲ 52.4 (▲ 36.8)
北 海 道	▲ 40.3	▲ 44.3	▲ 39.7	▲ 42.9	▲ 44.3	▲ 52.0	▲ 44.9 (▲ 39.8)
東 北	▲ 58.0	▲ 60.3	▲ 59.6	▲ 63.4	▲ 66.0	▲ 65.7	▲ 63.3 (▲ 39.6)
北陸信越	▲ 52.2	▲ 57.1	▲ 62.0	▲ 50.6	▲ 61.5	▲ 63.8	▲ 52.7 (▲ 37.9)
関 東	▲ 50.6	▲ 55.8	▲ 54.8	▲ 52.3	▲ 59.5	▲ 58.5	▲ 44.8 (▲ 29.9)
東 海	▲ 57.4	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 55.3	▲ 67.8	▲ 63.4	▲ 60.9 (▲ 32.7)
近 畿	▲ 64.1	▲ 61.8	▲ 65.8	▲ 68.7	▲ 68.8	▲ 66.7	▲ 60.7 (▲ 38.9)
中 国	▲ 57.5	▲ 63.8	▲ 64.1	▲ 62.7	▲ 68.2	▲ 57.5	▲ 50.7 (▲ 40.4)
四 国	▲ 57.9	▲ 69.2	▲ 65.2	▲ 63.5	▲ 67.9	▲ 58.3	▲ 46.6 (▲ 49.1)
九 州	▲ 49.7	▲ 56.1	▲ 58.6	▲ 58.0	▲ 62.4	▲ 54.5	▲ 51.3 (▲ 37.7)

業況DI (前年同月比) の推移 (全国)

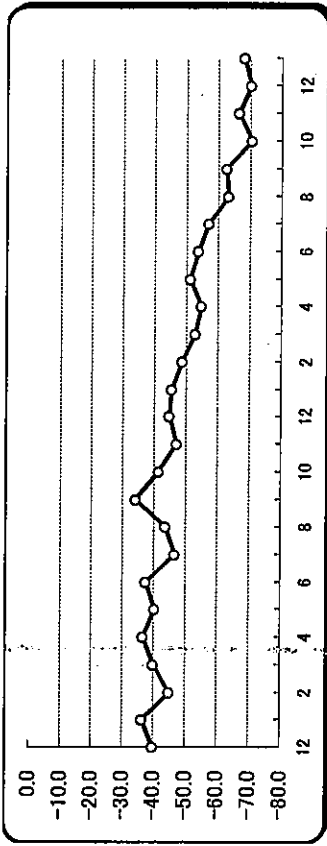
建設業



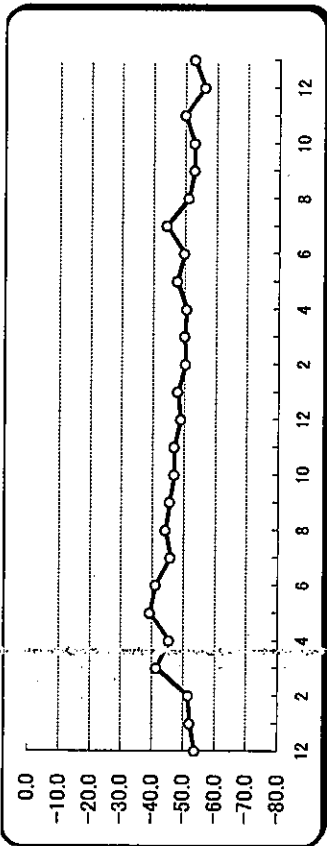
製造業



卸売業



小売業



サービス業

